

2021年3月15日

## ベトナムの通勤（通学）事情

ベトナムの所得水準は増加傾向にあるとは言え依然として低く、またメトロなどの都市交通インフラも整備の途上にありますが、ベトナムの人々はどのような交通手段で通勤しているのでしょうか。

ベトナムでは通勤に、バイク、自家用車、自転車からバスなどの公共交通機関にいたるまで、さまざまな交通手段を利用しています。自家用車は徐々に普及していますがまだ主流ではなく、現時点ではバイクが最も一般的な通勤手段となっています。

- ❖ **バイク**：大多数の国民の所得に見合った安い価格で入手でき、速く移動できる利便性があるため、ベトナム人のサラリーマンの約 80%が通勤手段としてバイクを選んでいます。1990 年から 2020 年にかけてベトナムでの都市化に伴い通勤人口が増えたため、バイクの保有台数は 120 万台から約 6,200 万台へと 52 倍もの急増を記録しました。ベトナム人のバイク所有率は、2020 年に 1,000 人あたり 635 台に達し世界で最も高い国のグループに属しています。ちなみにベトナムのバイク市場では、ホンダが約 8 割のシェアを持っています。ハノイの JVRC スタッフのほとんどもバイクで通勤しています。なお、ガソリン価格は上昇傾向にあります。人々は必要経費として割り切っているようです。（出所：交通・運輸省及びベトナム二輪車協会）



当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

❖ **自動車**：自動車の所有はまだ一部の富裕層に限定されています。駐車場不足や渋滞などの問題があるため、通勤手段として車を利用する人は多くなく、たとえ自動車を所有していても通勤はバイクを利用する人が多いのが実状です。とは言え、ここ数年



で自動車通勤をする人の数は増えていて、5年前と比べ2倍ほど増加している印象です。現在、ベトナム人の自動車保有台数は418万台で、所有率は1,000人あたり43台です。（交通運輸省登録局）

❖ **自転車**：自宅から職場までの距離が短ければ自転車を使って通勤（通学）する人もいます。学生は自転車通学するのが一般的です。



当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

ベトナム通信 ～当社グループ現地スタッフによる最新情報～

- ❖ **バス**：アジアの都市の平均は 1,000～1,500 台/百万人であるのに対し、ハノイのバスの供給は 300 台/百万人です。ハノイとホーチミン市のような大都市では、バスシステムが移動手段の 8～10%のニーズを満たしています。しかし、他の地域・省では、バスは通勤にあまり使用されてなく、交通手段としては需要の約 1%しか満たしていません。（出



所：ベトナム・ドイツ大学のベトナム・ドイツ輸送研究センター)

ベトナムでは、都市化のスピードに交通インフラ整備が追い付いていないため、特に大都市における交通状況は困難の度合いが増しています。目下、交通渋滞の解消が急務となっています。政府は、国民に公共交通機関への切り替えを奨励しており、また大気汚染を軽減するために、関係省庁は都市交通の改善に取り組んでいます。具体的には、特にハノイやホーチミン市などの大都市ではメトロプロジェクトが推進されていて間もなく開通する見込みです。さらに、持続可能な経済発展のために、政府はガソリンエンジンの代わりに、自転車、電動自転車、電動バイク、

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

ベトナム通信 ～当社グループ現地スタッフによる最新情報～

電気自動車などのより環境に優しい車両の使用を増やすことを国民に奨励しています。公共交通機関を機能的なネットワークとして拡充させ、人々が簡単に移動できるようなのはまだ相当な時間を要すると思われます。それまでは、引き続きバイクがベトナム人の最たる通勤手段であり続けるでしょう。



【写真提供：JVRC】 <http://www.capital-am.co.jp>

以上

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。